

仮想商店街の若者たち (新しい現実と乖離する現実)

東横線祐天寺、渋谷から3つ目のその駅に降り立って少しばかり歩いた時、時間が逆戻りしたような感覚に囚われた。遠い昔(学生時代)行き交った街並みを思い出した。そこは祐天寺ではなかったが、狭い路地に並ぶ商店街は昔のままに見えた。だが、そこを通る人達に精気は感じられず、商店街はさびれているように見えた。これが渋谷から3つ目の駅前商店街の姿だった。

今月初め私は、その祐天寺に本社がある「楽天市場」という奇妙な名前の会社を訪問した。その会社は祐天寺駅から歩いて5、6分のテナントビルの4階にあった。4階建てビルなど周辺にあまりなかったので直ぐ判った。

楽天市場社は4階100坪程度のスペースの片隅にあって、その3分の2位は遊ばせていた。社員は皆身なり服装自由な5~6人若者達で、机の前に2台程度のパソコンが置かれ、ある者は忙しそうにキーボードを叩きある者は電話で雑談(?)に興じていた。

ここが今話題となっているバーチャル・モール(仮想商店街)「楽天市場」を運営している注目の企業であった。有名大企業から無名の中小・零細企業まで流通関係の企業が日参する会社なのであった。

私が「楽天市場」を知ったのは、日経ベンチャー誌9月号の記事からである。その記事には驚くべき事が書かれていた。私は興奮してあれこれ考え、ある店をその楽天市場に出店させる計画を立てた。そして同社に問い合わせし、一度訪問することになったのである。

日経ベンチャー誌である程度の知識をもち、実際自分のパソコンでその仮想商店街を覗いて買物をしてみて「これは行ける」と思った。現実には毎日1店舗ずつ開店していると云う(既に219店舗が開店)。1ヶ月間にこの「楽天市場」を訪れる人は300万人を超えると云う。そして、月間売上高は約1億円になると云う。

勿論、訪れる人で買物をする人の割合は低い筈だし、出店する全ての店舗が繁盛している筈もない。しかし、この商店街に出店したい企業が引きも切らず、多くの人がネット上で買物しているという事実は驚きである。そして、更に驚いたことは、この商店街はオープンして未だ1年一寸しか

経っていないこと、この商店街を立ち上げた起業家が有名企業からドロップアウトした徒手空拳の若者達あること、等である。

インターネット仮想商店街(バーチャル・モール)はかなり前から注目され、名だたる大企業が挑戦しては多くが失敗した世界である。昨年春ここでインターネット・ビジネスウェイと題して4回レポートを発信したが、バーチャル・モールは有望なビジネスとは思えなかった。理由はここでは触れないが、その困難性を軽々と乗り越えてしまうこの楽天市場の若者達の柔軟な発想に新しい現実を見た思いである。

体験した人は解るだろうが、インターネットは無法の荒野である。しかし、と同時に途方もない可能性に満ちた世界でもある。日本においてもインターネットに接続する人口が1,000万人を超えたと報じられている。私が始めた頃(2年あまり前)は約300万人と云われていた。ざっと3倍に膨れ上がった。恐らく2,000万人に達するのは時間の問題だろう。

そうした巨大な人口がネットの世界を動き回るとすれば、そこに大きな可能性が生じるのは当然のことである。金融や研究開発、総務・事務の世界だけではなく、物を売る世界まで変えようとしているのだ。ネット先進国である米国で起っていることを子細に点検・分析すれば、日本でもこれから起きようとしていることが何なのかわずかでも見えてくるのではないだろうか。

祐天寺の一隅で動き回るこの若者達が、既成の概念を打ち破って日本国中の小売業を震撼させる。この若者達が、自分達のしていることの経済的意味を理解しているかどうかは判らないが、少なくとも私達に新しい現実に挑戦する心を刺激していることは間違いない。

§お知らせ§

来る12月16日(水)16時半より「創註型経営」や「社長の使命」等の著作で知られるNK C社長斎藤公一氏の講演会を企画しています。

演題は「非常時に打ち克つー我が心の中小企業」(予定)で、元気の出る話が聞けるのではないかと思います。後日正式にご案内いたしますが、是非ご参加下さいませよう予定に入れておいて下されば幸いです。